日本臨床発達心理士会神奈川支部

# NEWS LETTER かながわ

2011 年度第２号(通巻第 10 号)
2012 年２月 25 日　神奈川支部　発行
連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

## 巻 頭 言

**神奈川支部 事務局長 三隅 輝見子**

早春の候、皆さま健勝のことと、お慶び申し上げます。

さて、昨年は、神奈川支部が準備を担当した、日本臨床発達心理士会の第７回全国大会が横浜国立大学で開催されました。三月の東日本大震災、九月の台風等、多くの会員が天災に見舞われ、大会開催が危ぶまれる時期もございましたが、当日は大勢の参加者をお迎えし、無事に大会を終了することができました。参加者総数は 742 名（会員 647 名、一般 95 名）で、うち神奈川支部会員は 100 名を越えました。これは、神奈川支部会員の半数に相当します。また、大会準備委員会企画として７本のテーマを掲げ、大会プログラムを充実させる役割を果たすこともできました。本紙面をお借りしまして、神奈川支部会員の皆様のご参加とご協力に心より感謝を申し上げます。

ところで、全国大会の準備委員会は、神奈川支部役員に加えて、口コミで支部会員から協力者を募り、総勢 38 名で準備にあたりました。実は、準備を通して交流する中で、準備委員の皆様が神奈川県下の様々な臨床分野の第一戦でご活躍をされている方々であることがわかり、もっと日頃から情報交換や交流、連携ができると良いのにという思いが募りました。全国大会を契機に、神奈川支部会員の繋がりをより強化したいと考えています。また、東日本大震災を経験し、会員に有用な情報をタイムリーに配信する必要性を強く実感しております。そこで、今年度は神奈川支部ホームページの開設をめざしてきましたが、ようやく年明けに開設に漕ぎ着けることができました。ホームページの内容は、まだまだ不十分でございますが、今後、支部会員の皆様にもご協力をいただき、充実させていきたいと考えています。皆様、どうぞホームページをご活用いただきたく存じます。

## 神奈川支部研修会報告

年間テーマ:『神奈川の実践に学ぶ』
タイトル:「神奈川の高校の“支援教育”を考える」
日時:2011 年　12 月　17 日（土）　13:30〜16:30
場所:横浜市青少年育成センター
講師:奥野　康子氏（神奈川県立総合教育センター　教育相談部教育相談課）

今年度の神奈川支部の年間目標は、全国大会で「神奈川らしさ」を発揮することと連動して「神奈川の実践を学ぶ」としました。第 2 回目の今回は、神奈川県立総合教育センターで教育相談部教育相談課の奥野課長を講師にお迎えしました。

奥野課長からは、はじめに総合教育センターの沿革や業務内容の説明をしていただきました。神奈川の支援教育は『障害の有無にかかわらずさまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに、適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育』であるということを初めて知り、非常に先進的であるという印象を受けるとともに、対象となる子どもの多様性に少しびっくりしました。つまり、支援教育には障害に起因する教育的ニーズに留まらず、不登校、いじめ、暴力行為、外国籍など、今の教育現場が抱えている様々な問題が全て含まれているとのことです。そのためには人材育成が大きな課題となっており、「教育相談コーディネーター」が支援体制の要として毎年多くの先生方が研修を受けて指名されています。

次に、タイトルにもある「高校の支援教育」について、生徒の状況、重点プログラム、特別支援学校との連携など詳しくお話していただきました。その中でも、高校生を支える 7 つの視点として、①中学校との連携、②教職員間のチームワーク、③保護者との連携、④本人とのかかわり、⑤外部資源等の活用、⑥周囲の生徒への働きかけ、⑦卒業後に向けて、があると整理していただき、これはどのような分野にも当てはまると感じました。ひとりのケースをライフステージに沿ってきちんと支援するためには、前後の支援との連携が重要となります。高等学校は義務教育ではなく、受験を経る必要があるため、中学校や大学との連携の難しさがあり、支援シートが引き継がれにくいのは課題であると思いました。

後半の質疑応答の時間には、様々な立場の方から次々と質問があがり、講演内容を深めることができました。その中で、大学の教育相談との関連や、その先の「就職」についても話題になり、もっとも苦労する就職に対する取り組みは、高校、さらには小中学校の段階から意識しておくべきだという意見が印象に残りました。県立養護学校高等部の分教室という神奈川独自の取り組みについても、その成果と課題が確認されました。

非常に困難を覚えるケースに相談員が頭を抱えるとき、最後に登場してその場をいつも上手に解決される、という奥野課長の人柄にも触れることができ、臨床発達心理士としてもこのような力量を持たなければ、と思わされる研修会でした。

## 神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

＊参加者 26 名中 22 部が回収されました。

1．今回の研修会の内容について

1）自分の知識の広がりにつながるものでしたか（5択）

「とてもそう思う」11 名（50%）、
「そう思う」10 名（45%）、
「そう思わない」1名（5%）

2）臨床現場に役立つものでしたか（5択）

「とてもそう思う」4名（18%）
「そう思う」16 名（72%）

3）内容へのご意見をお聞かせください（自由記述）

・県内の様子、高校の様子や現状について、なかなか情報を得る機会が持てないので、とても有意義な研修を受けさせて頂きました。
・特別支援教育の動きが始まって 10 年経ち、高校への波及の状況を伺うことができとても参考になりました。
・高校における支援の考え方が、幼児期の考え方と基本的には変わらないことがよく分かった。
・ライフステージを見通した支援のシステムについて学ぶことができた。
・自己理解の大切さを改めて痛感いたしました。など

2．今後の神奈川県支部で希望する研修会・研究会について（自由記述）

・教育制度について
・特別支援に関する具体的なケースや対応について
・自己認知への支援
・青年期・成人期の就労支援
・高校生の職業選択
・大学での発達障害のある人への支援の実際
・知的障害、発達障害者の就労支援、企業側との連携について
・高齢者への支援
・精神障害についてと支援方法援
・発達障害者支援センターの方のお話
・乳幼児健診における心理職のあり方、保護者への助言、次機関へのつなげ方等
・震災支援関係や、そこで必要とされる専門的スキルなど
・WISC-Ⅳの読み方、支援への利用の仕方
・Positive Behavior Support の介入方法、実践について、 など